

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 根木名小学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

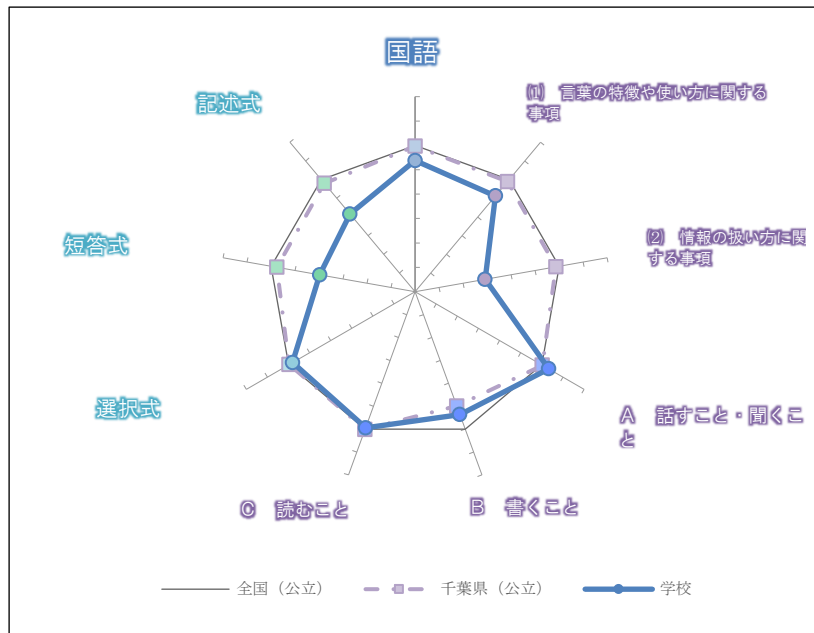
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



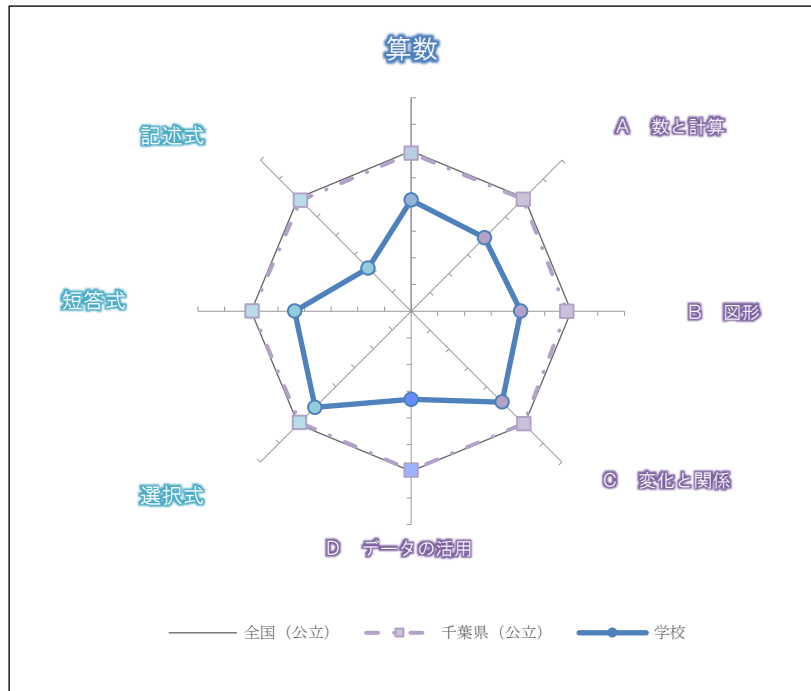
【特徴と現状】

- 全体的に、全国と比較して正答率が下回っています。
- 「書くこと」の領域において、正答率が特に低くなっています。「記述式」「短答式」の問題形式において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題があります。
- 「情報の扱い方に関する事項」において、正答率が低くなっています。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題があります。

【改善方策等】

- 情報を整理する際、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにしていきます。また、ICT 機器 (タブレット等) を活用して編集したり、視覚的に捉えたりし、情報を整理しやすくしていきます。
- 内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切かといったことなどを観点として、文や文章を整えて書く力の向上を目指します。

算 数



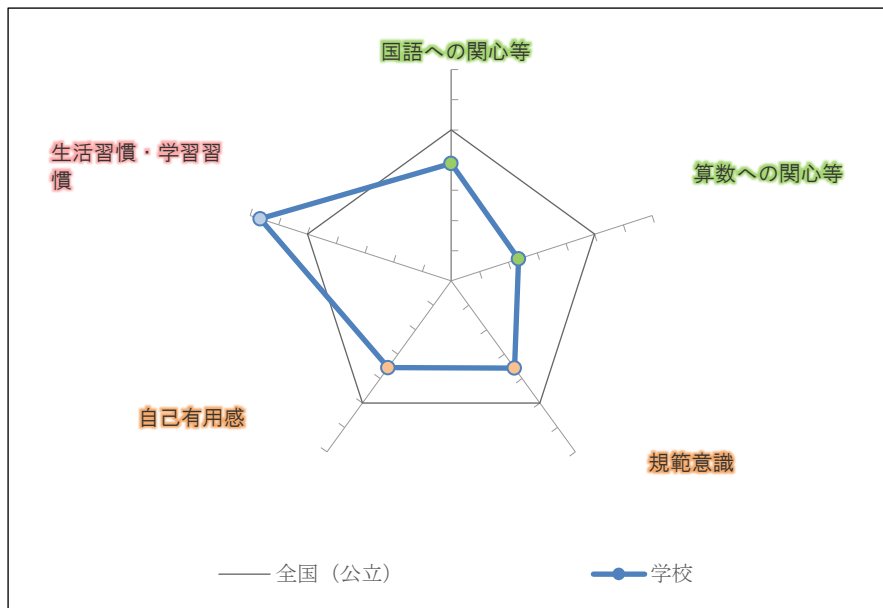
【特徴と現状】

- 全体的に、全国と比較して正答率が下回っています。
- 「データ活用」の領域において、正答率が特に下回っています。意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ること、見いだした違いを言葉と数を用いて記述したりすることに課題があります。
- 「記述式」の解答形式において、正答率が特に下回っています。複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて書くことに課題があります。

【改善方策等】

- 日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、式を用いることができるようになることを目指します。
- 式を立てた後に答えまで求めることができるよう、四則計算や公式などの基礎基本の定着を一層図っていきます。
- 目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにしていきます。また、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのか理由を明らかにさせ、他者に分かりやすく説明できる力の向上を目指します。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「生活習慣・学習習慣」については、全国平均を上回っています。
- 教科への関心については、「国語科」「算数科」ともに全国平均を下回っています。学習の課題解決に向けて普段から自分で考え、自分で取り組んでいる児童は、「国語科」「算数科」ともに得点率が高いことがわかりました。
- 「規範意識」が全国平均を下回っています。規範意識の高さ、特に「いじめは理由があってもいけない」「地域・社会をよくしたい」という意識が高い児童が「国語科」「算数科」の得点率が高い相関関係がみられました。
- 「自己有用感」については、全国平均を下回っています。得点率の高い児童が普段周囲の大人から褒められる機会が少ないこともわかりました。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、国語科・算数科の「書くこと」や「情報の取り扱いに関する事項」「データの活用」の力の向上に努めてまいります。

正答率が高い児童は「生活習慣・学習習慣」「規範意識」の質問において肯定的な回答が見られました。「朝食を、毎日食べている。」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「学校が休みの日に、地域の図書館を利用している。」「話し合いで、今、自分の努力すべきことを決めて取り組んでいる。」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」等、家庭や学校での生活・学習習慣と学力に関連があることが、児童質問紙と得点率との相関関係から考えられます。

家庭での会話や自己有用感を高め、規則正しい生活習慣を身に付けるなど、引き続きご家庭でのご支援をお願いいたします。